

平成 28 年度第 1 回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	平成 29 年 3 月 24 日（金曜日） 午後 1 時 15 分～3 時
開催場所	立川市役所 209 会議室
次第	<ul style="list-style-type: none"> ・開会、会議の公開について 1. 委嘱状伝達 2. 正副委員長選任 3. 委員自己紹介 4. 計画の概要等について 5. 今後の進め方について 6. その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市文化振興推進委員会委員名簿 ・第 3 次文化振興計画の概要 ・第 3 次文化振興計画 平成 28 年度の主な取組状況 ・立川市第 3 次文化振興計画 ・地域文化振興財団 中期経営計画
出席者	<p>[委員]</p> <p>伊東功、今井良朗、高木誠、中込遊里、蓮池奈緒子、堀江けんいち、槇島藍、宮田龍之介、綿引康司</p> <p>[事務局]</p> <p>新海紀代美（産業文化スポーツ部長）、岡本珠緒（地域文化課長）、渡辺昌明（地域文化振興財団事務局長）、柳澤彰子（文化振興係長）、足立香織（文化事業係長）、小山裕二郎（文化振興係）</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方については、毎回テーマを設定し、委員の意見や関係者の話を伺い、報告書にまとめていく。 ・次回の会議は、8 月ごろを予定。
担当	産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係 電話 042 - 506 - 0012

■会議内容（要旨）

・開会、会議の公開について

- ・会議に先立ち事務局より、文化振興推進委員会の会議は「立川市審議会等会議公開規則」に基づき公開となる旨、説明があった。

[会議の公開について]

この会議は、基本的に個人情報等を扱うものではないので公開となる。会議の傍聴にあたっては、定員を5名とし、傍聴席を設け資料も用意する。議事録は、「会議概要」をホームページと庁舎3階の市政情報コーナーで公開する。その際、各委員の名前は、委員長と副委員長を除き、発言順に「A委員、B委員…」という表記とする。公開前に「会議概要」の内容をご確認いただく。

1. 委嘱状伝達

- ・今期の文化振興推進委員会発足にあたり、産業文化スポーツ部長より、委嘱状の伝達とあいさつがあった。

[部長あいさつ]

文化芸術振興には、立川市長も力を入れている。委員それぞれの立場から、貴重なご意見をいただき、文化芸術を楽しめるまちにしていきたい。実り多い委員会となるよう、よろしくお願ひしたい。

2. 正副委員長選任

- ・推薦により、今井委員が全会一致で委員長に指名され、あいさつがあった。
- ・推薦により、酒井委員が全会一致で副委員長に指名された。

[委員長あいさつ]

この委員会には4年間関わらせていただいている。私自身、この3月で大学を退任する。これからは個人として皆さんと関わらせていただく。これまでの経験を生かしつつ、この委員会に貢献していきたい。

3. 委員自己紹介

- ・各委員からそれぞれが関わる文化芸術活動の紹介を含めて、自己紹介があった。

4. 計画の概要等について

- ・地域文化課長より「立川市第3次文化振興計画」の概要と進捗について説明があった。
- ・地域文化振興財団事務局長より関連計画の「立川市地域文化振興財団 中期経営計画」の概要と取組について説明があった。

5. 今後の進め方について

(委員長) この委員会は市の委嘱によって成り立っているものだが、市、財団、文化関係団体が一緒に関わる貴重な場であると思う。その中で私たちに何ができるのかをみなさんと共に考えていきたい。

(A委員) この委員会はどのような位置づけなのか。

(事務局) 市、財団、文化関係団体が取り組んでいる文化芸術振興について、それぞれの立場からご意見をいただく場。ここで議論されたことをいろいろな形で個々の活動や市の計画などに反映させていきたい。

(A委員) フェーレ立川アートの鑑賞事業をはじめ、個別事業の動員はどうだったのか。

(委員長) そのあたりは調べればわかるが、この委員会ではもう少し大きな視野で議論していきたい。今後の進め方について事務局から提案をお願いしたい。

(事務局) 文化振興推進委員会は、「文化振興推進委員会条例」及び「文化芸術のまちづくり条例」に基づき、文化芸術振興施策の推進にあたり、市長の諮問を受けて計画案を策定したり、個々の施策について意見を具申したりする組織。

今期の委員会は、平成29年度に2回、平成30年度に2回を予定している。半年に1回程度の開催となるので、1回完結型で、毎回いくつかテーマを設定して、関係者の話を聞いたり、皆様からご意見をお伺いしたりするのはいかがか。

本日委員の皆様へ、文化芸術に対する想いや文化芸術施策にとって課題である、重要であるとお考えになっているトピックスを伺い、その中からテーマを抽出したい。2年間の委員会の活動は、報告書として、まとめたい。

(委員長) 本当はもう少し回数を設けられると理想的だとは思いますが、1回1回の内容を充実させていきたい。

(B委員) 私が所属しているNPOは、今、立川市とご一緒しているが、約10年間、にしすがも創造舎で豊島区と豊島区の財団と協働してきた。

立川市には、財団と市の役割の明確な位置付けとノウハウによるすばらしいスキームがある。プラスして、お集まりのみなさんのように経験値の高い民間の力を同じバランスで加えていくことを意識していきたい。

報告書をまとめる際には、フラットな立場で意見をまとめることができれば、層の厚い文化施策が推進できるのではないかと。

年2回は少ない気もするが、濃い時間で課題解決型の話し合いをしていきたい。

それぞれの立場での活動の中から課題を持ち寄って、限られた時間で話を進めて行くことができれば、実のあるものができるのではないかと。

(委員長) いまB委員から話があったように、この委員会には多様な分野から出席頂いている。社会全体の中で、多様性はひとつの大きな流れなので、そういった意味で、委員会と事務局の壁もはずしたい。全員が委員であるという意識で話をしていきたい。

みなさんからひと言だけでも、このことについて議論したいということを伺っておきたい。

(C委員) 条例や計画等、様々な文化振興施策が行われており「市民すべてが振興の主体である」という記載があるが、市民に実際そういう意識があるのか疑問がある。

市民グループ、自治会組織などを巻き込むような形を取ることができれば、全体が盛り上がるのではないか。様々な事業が展開されているが、いまひとつ全体の盛り上がりには欠ける印象がある。市民と主体側の関わりをどうにかしていきたい。

会議に出席していきなり議論というのは難しいので、事前に議題を投げかけていただき、当日の話し合いができるようにしたい。

(委員長) 議事の進行については、C委員がおっしゃるような形で進めていきたい。

(D委員) すごく面白いと思った点が、財団の「中期経営計画」に「立川市は目覚ましい発展を遂げ、多摩地域の中心として多くの人を訪れる交流都市となりました。」という表現があること。立川には市外の方が多く訪れるという特徴があるが、広域的に考えて、市外からの参加を促す取り組みが重要だと考える。周辺市に情報共有できるようにしていければよい。広域的な視点を持つことが必要。

(E委員) 私が立川市での活動で困っている事は、成果発表や劇団の公演をする場がないこと。都内で発表する予定だが、本当は立川市内で行いたい。

たちかわ創造舎で放課後シアターを行っているが、劇場法の関係で制限がある。子ども未来センターで実施した屋外公演のようなことは手間がかかり、そこまでしないと公演ができないのでは、私たちのような若手には難しい。

演劇の公演をするだけでなく、アーティストと市民の交流が生まれるような場を創りたい。劇場というよりは、出会いの場が一つでも多くあればよいと思う。

(委員長) 劇場に限らず既存の施設は常連の方でほとんど埋まっている現状があるようだ。

(B委員) E委員の提案に賛同する。もう一步進めて「なければ創りましょう」という発想を持つ、どうすればできるのか関係者とキャッチボールをすることは必要。根幹にあるのはアートの方であることを共有して進めて行くことが大事。

D委員がおっしゃった広域連携も重要。たちかわ創造舎も多摩地域をエリアと捉えている。

市民が文化施策に対してどういう思いがあるのかを次回以降共有したい。

PR戦略については、市民にどれだけ情報が届いているかを知ることが、ポイントとなる。

事務局側も委員同様意見交換ができるとよい。委員長提案通りに進めたい。

(F委員) 自分の立ち位置はある意味では恵まれている。文化協会の副会長であり、国際的な活動もできている。海外に弟子や友人がいるので、いろいろな情報はある。

特にアジアとヨーロッパの格差は話にならない。行政マンも向こうはすごい。いろいろ出来たら良いと思う。子どもから高齢者までと様々な関わりがあり、情報を提供できると思うので、お役に立てれば良いと思う。

(G委員) 様々な境遇で暮らす子どもたちに文化を提供することが必要。ひとり親家庭に公演を鑑賞する機会を提供する事業は初めて知った。コンサート事業以外に美術を通して支援できないかと考えている。

制作をする側、若手アーティスト支援という視点についても考えたい。担い手の手前にいる人たちがどうやって連携できるのかを探りたい。

(A委員) 自分は芸術家でもなんでもなく、意識していなかったので、ムーサ等を目にする機会もなかった。アーティストはヒットすれば注目してもらえるので、自分を主張する偏りがあるというイメージを持っていた。

今こうして改めて見ると、様々な事業や取り組みを行っていることがわかり、意識していくことによって目に入るようになると思う。政治も一緒に、政治に興味がない人も友達が政治家になったら興味がわくと思う。多くの人にアートに触れてもらう仕組みをつくり、発信をうまくやる必要がある。

(H委員) ひとつは、文化・芸術を提供している環境が、市民の立場に立って提供できているのかという目線が必要であること。

もうひとつは、自分の立場。立川市は非常に豊かかもしれないが、周辺市は文化芸術に資金を供給できるかわからない。広域連携は非常に重要。そういう場合は、たましん地域文化財団としても市とは別の立場で何らかの協力をしていきたい。

(委員長) 今ざっと出していたが、皆さんが考えていらっしゃることは、どこかでポイントがつながっている。その辺りを整理して、丁寧に議論を深めていきたい。

私自身も今まで学生と活動してきたが、場を創っていくことが重要だと思っている。場をつくるには仕掛けるしかない。この委員会から何か新しい提案が生まれてくればよい。

例えば古い団地を違う形で、いろいろな場として作り替えられないかという話もあった。実際に他の地域で起こっていることも参考にしつつ議論を深めていきたい。

6. その他

- ・次回は8月頃を予定。